

準絶滅危惧

オオイシソウ

Compsopogon caeruleus (Balbis) Mont.

神奈川県	2006	
	1995	
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】

生育地は 26 か所記録されているが、分布域の一部において生育条件が悪化しており、準絶滅危惧 (NT) と判定した。

【生育環境・生態】

低地の河川に生育し、暗青緑色の分枝した糸状体は 80 cm 程度まで伸長し、夏から晩秋まで見られる。

【現状】

出水によりかく乱を受けた後に顕著に増加することがある。水質汚濁の回復が進んだ河川で分布の拡大が観察されている。

【国内分布】

全国、関東と九州での記録が多い。

【県内分布】

多摩川、鶴見川、入江川、帷子川、大岡川、侍従川、三浦半島の小河川、境川、相模川、酒匂川の上～下流部

※ 確認箇所が県東部に多いのは、横浜市内での定期的な河川藻類調査の結果を反映しているため。

【存続を脅かす要因】

水質汚濁

【特記事項】

日本で最初にオオイシソウの生育が確認されたのは多摩川の三沢川流域であるが、三沢川流域では現在もその生育が確認されている。

カワモズク科

絶滅危惧Ⅰ類

カワモズク

Batrachospermum gelatinosum (L.) DC.

神奈川県	2006	
	1995	
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】

生育地は 1 か所記録されているだけで、定性的要件①に準じ絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) と判定した。

【生育環境・生態】

小河川・水路の湧水口付近や湧き出した伏流水の流れで、樹林、水辺植物、護岸などで日射が一部遮られるが、比較的明るい部分に生育する。配偶体は褐色で晩秋から早春に形成される。水温への適応範囲は狭いと考えられる。

【現状】

木洩れ日が当たる溪谷で、砂防堰堤の水抜き穴から流れ出した伏流水が緩やかに流れるところ。生育地では冬の濁水により伏流水が枯渇し、配偶体が見られなくなったことがある。

【国内分布】

主に関東以西。

【県内分布】

酒匂川の源流部

【存続を脅かす要因】

森林伐採、治山工事、斜面崩壊

【特記事項】

ニホンカワモズクが生育するところに生育し、異なる時期に配偶体の形成が確認された。現状での分類に従えばカワモズクとなるがニホンカワモズクとしているもの同一の可能性もある。

📷 写真あり：口絵8)

カワモズク科

絶滅危惧Ⅰ類

ニホンカワモズク

Batrachospermum japonicum M.Mori

神奈川県	2006	
	1995	
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】

生育地は 2 か所記録されているだけで、定性的要件①に準じ絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) と判定した。

【生育環境・生態】

小河川・水路の湧水口や湧き出した伏流水の緩やかな流れ、湧水池で、樹林、水辺植物、護岸などで日射が一部遮られるが、比較的明るい部分に生育する。配偶体は褐色で年間を通じて形成されることが多い。水温への適応範囲は狭いと考えられる。

【現状】

砂防堰堤から伏流水が流れ出したところや、木洩れ日が当たる溪谷の緩やかな流れ。生育地では冬の濁水により表流水が枯渇し、配偶体が見られなくなったことがある。

【国内分布】

主に関東以北

【県内分布】

相模川、酒匂川の源流部

【存続を脅かす要因】

森林伐採、治山工事、斜面崩壊

【特記事項】

カワモズクのシノニム (同種異名) とする意見もある。

準絶滅危惧							
<p>チャイロカワモズク</p> <p><i>Sheathia arcuata</i> (Kyllin) Salomaki & M.L.Vis</p>		神奈川県	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">2006</td> <td style="width: 80%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td></td> </tr> </table>	2006		1995	
2006							
1995							
		環境省	2020 準絶滅危惧				

【判定理由】
 生育地は 26 か所記録されているが、分布域の一部において生育条件が悪化し、今後さらに悪化が進行するおそれがあり、準絶滅危惧 (NT) と判定した。

【生育環境・生態】
 谷戸の湧水が緩やかに流れる小川・水路で、樹林、水辺植物、護岸などで季節的あるいは時間的に日照の変化が生じる薄暗い部分の、水底の小石やコンクリート床に生育する。落葉などで水面に日射が当たるようになる主に晩秋から晩春まで配偶体が形成される。湧水量が多い場所では配偶体が年間を通してみられることもある。配偶体は薄茶色～黄緑色。下水処理水で維持されている水路や農地からの浸み出し水が流入する水路でも生育することから、富栄養化した水質にも適応していることが認められる。

【現状】
 谷戸は規模が小さく、生育地の多くは環境変化の影響を受けやすい。開発により生育地が暗渠化された例もある。都市域の源流部では多くの水路がコンクリート化されているが、それが安定した付着基盤となっている例もある。

【国内分布】
 全国

【県内分布】
 多摩川、入江川、鶴見川、帷子川、境川、三浦半島の小河川、引地川、相模川、葛川、酒匂川の源流部
 ※ 確認箇所が県東部に多いのは、横浜市とその周辺の源流域での特定藻類調査の結果を反映しているため。

【存続を脅かす要因】
 市街化、水質汚濁、管理放棄、湧水枯渇

【特記事項】
 学名は環境省レッドリスト2020に準じたが、どの学名を採用するかは今後の課題である。横浜市の河川生物指標でカワモズク類(チャイロカワモズク、アオカワモズク)は源・上流域における大変きれいな水質の指標種となっている。

〈📷写真あり: 口絵8〉

絶滅危惧Ⅱ類							
<p>アオカワモズク</p> <p><i>Virescentia helminthosa</i> (Bory) Necchi, D.C.Agostinho & M.L.Vis</p>		神奈川県	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">2006</td> <td style="width: 80%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td></td> </tr> </table>	2006		1995	
2006							
1995							
		環境省	2020 準絶滅危惧				

【判定理由】
 生育地は 12 か所記録されているが、近年になって生育しなくなった場所も確認されており、定性的要件②に準じ絶滅危惧Ⅱ類 (VU) と判定した。

【生育環境・生態】
 谷戸の小川・水路で湧水の緩やかな流れに出現することが多く、生育区間はチャイロカワモズクと重なるが、下流側の開けたところまで生育し、水温への適応範囲が広いと考えられている。配偶体は緑色～濃緑色で主に晩秋から晩春に形成されるが、チャイロカワモズクよりやや遅れて出現し、消失する時期もやや遅い。

【現状】
 生育地の多くは水路整備によりコンクリート化されている。県東部でチャイロカワモズクよりアオカワモズクの生育地が少ないのは、市街地の拡大による谷戸の消失によるものと考えられる。

【国内分布】
 全国

【県内分布】
 多摩川、鶴見川、帷子川、境川、引地川、酒匂川の源流部
 ※ 確認箇所が県東部に多いのは、横浜市とその周辺の源流域での特定藻類調査の結果を反映しているため。

【存続を脅かす要因】
 市街化、水質汚濁、管理放棄、湧水枯渇

【特記事項】
 学名は環境省レッドリスト2020に準じたが、どの学名を採用するかは今後の課題である。横浜市の河川生物指標でカワモズク類(チャイロカワモズク、アオカワモズク)は源・上流域における大変きれいな水質の指標種となっている。

〈📷写真あり: 口絵8〉

準絶滅危惧							
<p>タンスイベニマダラ</p> <p><i>Hildenbrandia rivularis</i> (Liebmann) J.Agardh</p>		神奈川県	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">2006</td> <td style="width: 80%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> <td></td> </tr> </table>	2006		1995	
2006							
1995							
		環境省	2020 準絶滅危惧				

【判定理由】
 生育地は 41 か所記録されているが、分布域の一部において生育条件が悪化し、今後さらに悪化が進行するおそれがあり、準絶滅危惧 (NT) と判定した。

【生育環境・生態】
 湧水点や湧水が流れる小川や水路、溪流、滝の壁などの樹林により日射が妨げられ木洩れ日程度の日射が当たる場所で、礫や岩盤上に紅色の斑点状の群体を形成し、繁茂すると礫全体や岩盤の広い範囲が紅色に見えるようになることもある。イズミシノカワが同所的に分布する例もある。

【現状】
 県中央部などでは湧水点やその下流側に生育している例が多く、東部と西部などでは溪谷の流れに生育している例もある。

【国内分布】
 全国。

【県内分布】
 多摩川、大岡川、侍従川、境川、引地川、相模川、金目川、森戸川、酒匂川の源流部
 ※ 確認箇所が県東部に多いのは、相模原市の湧水環境調査の結果を反映しているため。

【存続を脅かす要因】
 河川開発、市街化、水質汚濁、湧水枯渇、斜面崩壊

【特記事項】
 横浜市の河川生物指標でタンスイベニマダラは源・上流域における大変きれいな水質の指標種となっている。

〈📷写真あり: 口絵8〉

絶滅危惧Ⅰ類

イズミシノカワ

Heribaudiella fluviatilis (Aresch.) Sved.

神奈川県	2006	
	1995	
環境省	2020	絶滅危惧Ⅰ類

【判定理由】

生育地は少なく9か所記録されているだけで、定性的要件②に準じ絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)と判定した。

【生育環境・生態】

湧水の流れて、樹林により日射が妨げられ木洩れ日程度の日射が当たる場所で、礫や岩盤上に褐色の斑点状の群体を形成する。タンスイベニマダラと同所的に分布する例が多い。

【現状】

人為的に改変された環境に辛うじて生育している場所が多く、日射が良く当たるところでは、礫の裏側で日陰になる部分で確認される例もある。

【国内分布】

主に関東以西

【県内分布】

多摩川、侍従川、境川、相模川、森戸川、酒匂川

※ 神奈川県レッドリスト藻類の選定のための調査などで、最近に生育が確認された場所が多い。

【存続を脅かす要因】

森林伐採、河川開発、水質汚濁、湧水枯渇

【特記事項】

群体の色が珪藻類などと同じで、目立たないために確認例が少ない可能性もある。

カワノリ科

絶滅危惧Ⅰ類

カワノリ

Prasiola japonica Yatabe

神奈川県	2006	
	1995	
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類

【判定理由】

生育地は少なく6か所記録されているだけで、近年になって生育しなくなった場所も確認されており、定性的要件②⑤に準じ絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)と判定した。

【生育環境・生態】

清冽で冷たく流れの速い溪流の日射が妨げられない部分で、大きな礫に密集して生育し、水面付近や飛沫が当たるところに生育する葉状体は目立つ。緑色で膜状の葉状体の外形はさまざまで周縁部はわずかに波打つ。藻体は晩春から発達して肉眼で見られるようになり、夏から秋に最も発達し、冬に見られなくなる。

【現状】

溪流の滝口付近での生育は日射があまり遮断されない環境で、伏流水が湧き出た下流側での生育は流量が多い環境となっていることを示している。しかし、丹沢山地における生育地の河川規模は比較的小さく環境変化の影響を受けやすい。

【国内分布】

関東以西の主に太平洋に注ぐ河川、不知火海と有明海に注ぐ河川の源・上流部の溪流で、石灰岩の多い古・中生代の地層部、フォッサマグナ地域、火山地域。

【県内分布】

丹沢山地の沢で、相模川、金目川、酒匂川の源流部

※ 神奈川県でカワノリが確認された記録はいずれも古く、近年における確認報告はない。

【存続を脅かす要因】

治山工事、堰堤工事、管理放棄、斜面崩壊

【特記事項】

日本固有種。夏から秋に採集され、薄い板状に天日乾燥して食用に供される(短冊形の製品を道の駅で販売しているところもある)。神奈川県での地方名(製品名)はかわのり、他に大谷川苔、桐生のり、多摩川苔、桂川のり、芝川苔、円原苔、青藍苔、山浦苔、高千穂苔、菊池川苔などの地方名がある。